

一般演題（口演）

■ 2025年11月1日(土) 16:30～17:20 ■ 第6会場

[O] 一般演題（口演） 「セルフメディケーション・公衆衛生・社会薬学」

座長:益山 光一(東京薬科大学薬学部 医療薬物薬学科 社会薬学教育センター 薬事関係法規研究室 教授), 富永 佳子(新潟薬科大学 薬学部 社会薬学研究室 教授)

[O-6-16]

来局者のセルフメディケーションへの意識および自覚する栄養素の過不足に関する調査～健康支援の視点から～

○加古 奈央実¹, 本多 愛美², 横田 敦子², 松原 健二³, 平賀 成美⁴, 東口 瑠理⁵, 大西 里沙⁶, 川崎 杏子⁷, 庄村 元希⁸ (1. (株) なの花中部 なの花薬局 藤枝小石川店, 2. 事業部, 3. 勢田店, 4. 金剛坂店, 5. 観音寺店, 6. 熱田神宮前店, 7. 大桑店, 8. 事業部教育セッション)

[O-6-17]

塩分味覚閾値検査を用いた健康フェア参加者の実態調査と調査結果を踏まえた今後の減塩指導への活用による期待

○押木 真由美¹, 二宮 智子¹, 末澤 千恵², 庄村 元希³ (1. (株) なの花中部 なの花薬局 梅森台店, 2. なの花薬局 河芸店, 3. 事業部教育セッション)

[O-6-18]

血圧啓発イベント「血圧測ろうぜ！」による市民の行動変容

○土井 真喜^{1,5}, 西垣 賢², 高橋 祐介³, 平子 庸志⁴ (1. (株) メディカルシステムネットワーク 地域薬局事業部, 2. (株) 関西メディコ 地域政策部, 3. クオール (株), 4. アイングループ (株) アインホールディングス, 5. 健康ハートの日 血圧啓発プロジェクト 薬局代表メンバー)

[O-6-19]

認知症の方が住みやすい街づくりをめざして 桑園認知症ケア研究会（通称 オレンジ桑園）の活動

○相山 千晴¹, 橋本 茂樹², 中野 正剛³, 小川 香織⁴, 菅原 淳⁵, 野間 友一郎⁶ (1. (株) なの花北海道 なの花薬局 桑園店, 2. 医療法人 溪仁会リハビリテーション病院, 3. 市立病院前老年内科メモリークリニック, 4. (株) ナカジマ薬局, 5. (株) なの花北海道 なの花薬局 道南事業部, 6. 道央事業部)

[O-6-20]

健康サポート機能拡充を見据えた薬剤師と管理栄養士の協働による骨密度悪化予防の取り組みおよび栄養摂取傾向の調査

○石尾 みほ^{1,2}, 岡本 茅子¹, 安倉 央¹, 高橋 正志¹, 清水 美恵子³, 河野 奨², 加地 弘明² (1. (株) マスカット薬局, 2. 就実大学大学院 医療薬学研究科, 3. 吉備中央町円城地区集いの場 ももカフェ)

一般演題（口演）

2025年11月1日(土) 16:30～17:20 第6会場

[O] 一般演題（口演） 「セルフメディケーション・公衆衛生・社会薬学」

座長:益山 光一(東京薬科大学薬学部 医療薬物薬学科 社会薬学教育センター 薬事関係法規研究室 教授), 富永 佳子(新潟薬科大学 薬学部 社会薬学研究室 教授)

[O-6-16] 来局者のセルフメディケーションへの意識および自覚する栄養素の過不足に関する調査～健康支援の視点から～

○加古 奈央実¹, 本多 愛美², 横田 敦子², 松原 健二³, 平賀 成美⁴, 東口 瑠理⁵, 大西 里沙⁶, 川崎 杏子⁷, 庄村 元希⁸ (1. (株) なの花中部 なの花薬局 藤枝小石川店, 2. 事業部, 3. 勢田店, 4. 金剛坂店, 5. 観音寺店, 6. 熱田神宮前店, 7. 大桑店, 8. 事業部教育セッション)

【目的】保険薬局では、OTC医薬品や健康食品を取り扱い地域住民の健康支援を行っている。健康の維持増進に役立つ商品の選定をするため、来局者のセルフメディケーションに関する認知度や意識を把握し、栄養素の過不足に対する自覚を調査した。

【方法】2024年11月18日～20日の期間中、なの花薬局6店舗に来局した20歳以上の方に匿名のアンケート調査を実施した。セルフメディケーションに関する意識や、普段の食事で過不足を感じている栄養素の有無などを単一選択式で調査した。過不足の自覚があると回答した方には、どの栄養素が該当するかを複数選択式で調査した。

【結果】有効回答250名。セルフメディケーションを意識した生活をしているかの質問では、はい19%、いいえ26%、言葉を知らない55%であった。また、普段の食事で摂りすぎていると思う栄養素があるかの質問では、はい40%、いいえ25%、わからない35%、不足していると思う栄養素があるかの質問では、はい52%、いいえ13%、わからない35%であった。過剰と感じている栄養素は糖質81%、脂質54%、不足と感じている栄養素では鉄46%、ビタミン42%の順に多かった。

【考察】セルフメディケーションの認知度が低いことが明らかとなった。また、普段の食事の中で栄養素の過不足に対する自覚に個人差があり、一定数の方は自身の適切な栄養素の摂取量や実際に摂取している栄養素の種類・量を知らないことが示唆された。これは意識や知識の差が影響していると考えられる。糖質・脂質の過剰、鉄・ビタミンの不足が特に自覚されていることから、生活習慣病予防や貧血予防などの健康支援が必要と考えられる。今後は地域薬局としてセルフメディケーションの認知向上に努めるとともに、自身で適切な栄養摂取ができるよう啓発し、栄養素の過不足を補うための商品を提案することで地域住民の健康支援に貢献したい。

一般演題（口演）

2025年11月1日(土) 16:30～17:20 第6会場

[O] 一般演題（口演） 「セルフメディケーション・公衆衛生・社会薬学」

座長:益山 光一(東京薬科大学薬学部 医療薬物薬学科 社会薬学教育センター 薬事関係法規研究室 教授), 富永 佳子(新潟薬科大学 薬学部 社会薬学研究室 教授)

[O-6-17] 塩分味覚閾値検査を用いた健康フェア参加者の実態調査と調査結果を踏まえた今後の減塩指導への活用による期待

○押木 真由美¹, 二宮 智子¹, 末澤 千恵², 庄村 元希³ (1. (株) なの花中部 なの花薬局梅森台店, 2. なの花薬局河芸店, 3. 事業部教育セクション)

【目的】2024年6月の診療報酬改定で生活習慣病療養計画書が交付され、患者の行動目標が明確化された。これにより患者の生活指導への関心はますます高まると予想される。本研究では患者の減塩への意識変化のきっかけとなることを目的に、現時点での塩分味覚閾値の可視化と減塩への意識について調査を行った。

【方法】2024年11月23日になの花薬局梅森台店で開催された健康フェアの参加者を対象にアンケート調査と塩分味覚閾値検査であるソルセイブ®検査（以下、検査）を実施した。調査項目は普段の食事の味の濃さ、日頃の減塩への意識、検査後の減塩への意識等（すべて単一選択）とした。検査では食塩含浸濾紙を用い、 $0.6\text{mg}/\text{cm}^2$ を健常者閾値とした。

【結果】対象者は、自主的に参加した33人（うち降圧剤定期服用ありは45.5%）であった。 $0.6\text{mg}/\text{cm}^2$ で塩味を感じたのは、普段の食事の味の濃さを「やや濃い/普通」と答えた21人（以下、A群）のうち71.4%に対し、「薄い/やや薄い」と答えた12人（以下、B群）では33.3%だった。また検査後の減塩への意識変化について「減塩への意識が高まった」と答えたのはA群76.2%、B群75.0%であった。

【考察】今回の研究で、日頃から薄味を意識していても実際の感受性には個人差があることが示唆された。そのため薄味を心掛けているつもりでも実際の塩分摂取量が多い可能性が考えられる。また検査実施により減塩意識が高まったことから、可視化することにより意識向上を期待することができる。今後塩分味覚閾値の可視化を盛り込んだ減塩指導を行うことで、減塩に対する認識のずれを減らし、患者の一日塩分摂取量減少への活用が見込まれる。

一般演題（口演）

2025年11月1日(土) 16:30～17:20 第6会場

[O] 一般演題（口演） 「セルフメディケーション・公衆衛生・社会薬学」

座長:益山 光一(東京薬科大学薬学部 医療薬物薬学科 社会薬学教育センター 薬事関係法規研究室 教授), 富永 佳子(新潟薬科大学 薬学部 社会薬学研究室 教授)

[O-6-18] 血圧啓発イベント「血圧測ろうぜ！」による市民の行動変容

○土井 真喜^{1,5}, 西垣 賢², 高橋 祐介³, 平子 庸志⁴ (1. (株) メディカルシステムネットワーク 地域薬局事業部, 2. (株) 関西メディコ 地域政策部, 3. クオール (株), 4. アイングループ (株) アイホールディングス, 5. 健康ハートの日 血圧啓発プロジェクト 薬局代表メンバー)

【目的】我が国の高血圧有病者は約4,300万人と推定され、そのうち1,400万人は自身が高血圧であることを認知していない状況である。そこで我々は、健康ハートの日2024の血圧啓発イベントとして「血圧測ろうぜ！」を企画し、全国の薬局・薬店10,239店舗で展開した。本イベントに参加した一般市民に対しアンケート調査を行い、今後の課題を検討した。

【方法】2024年7月28日～8月10日に血圧啓発イベントに参加し、初回アンケートに回答した一般市民542名を対象に、イベント実施から1か月後にフォローアップアンケートを実施した。調査内容は、年齢・性別および血圧啓発による行動変容（9項目）であった。行動変容が起った割合と対象者属性によるクラスター分析をJMP[®] Pro18を用いて実施した。

【結果】回答割合は18.8%（102/542名）であり、そのうち男性の割合は41.2%であった。行動変容は、「塩分控えめの食事を心がけた」が73.5%、「自宅にあった血圧計で測定を再開した」が46.1%、「運動療法として定期的に有酸素運動を開始した」が35.3%であった。クラスター分析では、40～59歳の男性群全員が血圧測定行動をとった。60歳以上の男女群では、受診行動が76.9%にみられ、新たな降圧剤の服用が73.1%で開始された。

【考察】本研究では、血圧啓発活動により、参加者の7割以上が塩分控えめの食事を意識した。さらに、60歳以上の高齢者層で血圧に関する受診行動がみられた。これらの結果から、血圧に関する知識の向上が具体的な行動変容を促進している可能性が考えられる。今後は、個々の血圧状況を考慮しながら、必要な行動変容が実際に生じているかを検証し、効果の持続性を確認したい。また、本研究により、血圧に関する知識普及の重要性が再確認された。引き続き、血圧管理に関する啓発活動を積極的に推進していきたい。

一般演題（口演）

2025年11月1日(土) 16:30～17:20 第6会場

[O] 一般演題（口演） 「セルフメディケーション・公衆衛生・社会薬学」

座長:益山 光一(東京薬科大学薬学部 医療薬物薬学科 社会薬学教育センター 薬事関係法規研究室 教授), 富永 佳子(新潟薬科大学 薬学部 社会薬学研究室 教授)

[O-6-19] 認知症の方が住みやすい街づくりをめざして 桑園認知症ケア研究会
(通称 オレンジ桑園) の活動

○相山 千晴¹, 橋本 茂樹², 中野 正剛³, 小川 香織⁴, 菅原 淳⁵, 野間 友一郎⁶ (1. (株) なの花北海道 なの花薬局 桑園店, 2. 医療法人 溪仁会リハビリテーション病院, 3. 市立病院前老年内科メモリークリニック, 4. (株) ナカジマ薬局, 5. (株) なの花北海道 なの花薬局 道南事業部, 6. 道央事業部)

【目的】現在人口約3万人の北海道札幌市桑園地区には、65歳以上の高齢者は約7500人、その中で認知症高齢者は約800人いる。薬がきちんと飲めない、会話がかみ合わない、受診の日が分からないなど地域薬局薬剤師が認知症の兆候に気づくことがあり、その時どう対応していくか考えることが多くある。今後高齢化が進み、さらに認知症の人口は増えると想定される。桑園認知症ケア研究会（以下オレンジ桑園）は、認知症サポート医、地域薬局薬剤師、看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、まちづくりセンター長、認知症家族の会の会員など様々な職種で構成されている。チームにより認知症の方を地域で支えられる街を目指し、「桑園モデル」を構築して活動している。今回、札幌市「桑園」から「北海道」、「全国」と活動の輪を広げることがを目的とし、オレンジ桑園の活動と、その中で明らかになった認知症関連のニーズや対策について報告する。

【活動内容】認知症の方や認知症家族の方が悩みや今後の対応を無料で相談できる認知症ケア相談会の開催、札幌市中央区第一地域包括支援センターと共催し認知症サポーター養成講座を開催、桑園小学校学童家族への認知症関連ニーズ調査をしている。又、オレンジ桑園の活動に賛同した桑園地区の飲食店や医療施設等にオレンジ桑園ステッカー貼付の依頼、ウォーキングイベントであるRUN伴への参加、チャリティーイベントへの参加等を通して啓蒙活動をしている。

【考察】認知症関連ニーズ調査では認知症の知識がある方が認知症に対する不安が少ないと答えた人が多く、桑園の住人が認知症の方への接し方の知識を持つことが大切である。そして悩んだ際の相談先があることを認識してもらいたい。オレンジ桑園のような様々な職種の取り組みが認知症の方だけでなく高齢者、障害者にとっても暮らしやすい街づくりの一助となると考える。今後、その活動の輪を、より広げていきたい。

一般演題（口演）

2025年11月1日(土) 16:30～17:20 第6会場

[O] 一般演題（口演） 「セルフメディケーション・公衆衛生・社会薬学」

座長:益山 光一(東京薬科大学薬学部 医療薬物薬学科 社会薬学教育センター 薬事関係法規研究室 教授), 富永 佳子(新潟薬科大学 薬学部 社会薬学研究室 教授)

[O-6-20] 健康サポート機能拡充を見据えた薬剤師と管理栄養士の協働による骨密度悪化予防の取り組みおよび栄養摂取傾向の調査

○石尾 みほ^{1,2}, 岡本 茅子¹, 安倉 央¹, 高橋 正志¹, 清水 美恵子³, 河野 奨², 加地 弘明² (1. (株) マスカット薬局, 2. 就実大学大学院 医療薬学研究科, 3. 吉備中央町円城地区集いの場 ももカフェ)

【目的】健康サポート薬局には、かかりつけ薬局の機能に加え、疾病予防の観点から食事・栄養摂取に関するサポート機能の構築が望まれている。今回我々は骨に着目し、薬剤師と管理栄養士が高齢者サロンに赴き利用者の骨密度悪化予防のための栄養摂取への意識向上に向けて活動し、活動前後での利用者の骨に関連した栄養の摂取傾向を調査したので報告する。

【方法】2024年5月から6か月間、計6回高齢者サロンである「吉備中央町円城地区集いの場 ももカフェ」を訪問し、骨密度測定と栄養相談を行った。栄養相談では薬剤師が対象者の病歴と服薬状況を聴取後、管理栄養士が骨密度悪化防止に向けた栄養摂取をアドバイスした。利用者には事前に同意を得て活動初日と、6回目活動日、および活動終了後6か月後の全3回骨に関連した栄養摂取状況を問うアンケート調査を実施した。なお調査は就実大学教育・研究倫理安全委員会の承認を受け実施した。（受付番号：301）

【結果】3回の調査すべてに回答した者の回答15件を解析対象とした。骨形成に必要な各栄養素について、摂取量を意識しているかの度合いを5段階で回答を得た。各回とも最も意識されていたのは塩分、最も意識が低かったのはビタミンKであった。各回での回答に有意な差はみられなかったが、2回目の調査では1回目よりビタミンD・ビタミンK摂取への意識が強まる傾向がみられ、3回目の調査ではその意識は低下する傾向がみられた。

【考察】アンケート回答からは活動終了時には対象者の栄養摂取への意識の一時的な高まりがみられた。しかし活動終了後にはその意識が低下しており、食事摂取の意識向上には継続的な働きかけが必要であるといえる。我々は今後も薬局外のサロンに赴き健康啓発活動をすることで栄養摂取に関する意識向上および健康サポート機能の拡充につなげたいと考えている。

【キーワード】健康サポート薬局, 管理栄養士